

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人 ウェルフェア仙台		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中で、入居者が自分のペースで穏やかに生活できる様に支援しています。家庭的な雰囲気「自由に、のんびり、一緒に楽しく」過ごしていただけるよう職員間で話し合い、創意工夫し入居者の安心できる場所作りに努めています。また、入居者の高齢化に伴い認知力及び身体的能力の低下などが見られるようになってきており、できる限り生活の中で何らかの刺激を持っていただく為に音楽を流す、歌を歌う、オセロゲーム、バランスゲーム、ラジオ体操などを習慣的に行うなど楽しみながら意欲を持っていただけるように努力しています。その他にも畑作りを行い入居者と職員が収穫の喜びを分かち合えるようにしたり、外部との交流の機会を多く持てるように、併設されている、特養、ディサービスへの訪問やこども園への訪問、外部からGHへの訪問を呼びかけを行い地域交流に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々に囲まれた静かな環境で家庭的な雰囲気を持った平屋建である。入居者は天井の高い明るい居間でゆったりと民謡を聞いたり思い思いに過ごしている。今年度から運営推進会議の情報から、行事の参加や地域の人達とのつながりが拡がり楽しみが増えた。暗かった居間・食堂の照明を照度切り替え機能付きに変えたら「明るくなった」と入居者から喜ばれた。職員は常に楽しい時間を過ごして欲しいと考えて、石巻の仮設住宅で使用していたDVD「おらほのラジオ体操」で声を出し「イズ・ニー・サン・スー」と楽しい時間である。家族アンケートから、全ての人が健康面・医療面・安全面で不安なく過ごせていることが分かる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年9月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 仙南ジェロントピア高齢者グループホーム)「ユニット名 リリーハイム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に運営理念をふまえ介護にあたるように職員間で実践に繋げるように話し合っている。	法人とグループホームの理念は掲示してある。日々の業務で理念の確認はしているが、職員全員で振り返りや掘り下げた十分な話し合いには至ってはいない。	理念がケアに反映されているか振り返り、具体的に日々のケアで何をするのかを職員全体で話し合う機会を持つなどして、理念を実践に結び付けていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設(特養、デイ)、こども園への訪問や外部との交流が持てるように働きかけ実践している。	「丸森いち」に引き続き今年度から「館矢間いち」に参加して手打ちそばが好評だった。社協運営のこども園は月1回訪問で楽しみが増えた。10月の芋煮会は地域の人達の協力を得て行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域・行政にとって、意見交換の大事な場所になるように会議を進めるようにしている。	年6回開催され民生委員から地域の情報を得てこども園は月1回行くことになり楽しみが増えた。話題に認知症の対応や重度化対応を話し合っている。入居者や家族は参加者を固定せず声がけして出席してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あまり、密な連絡関係は築けておらず、協力要請を積極的に働きかけたり、情報の伝達と提供など協力関係を築く努力が必要と思われる。	運営推進会議に丸森町保健福祉課地域包括支援班の職員が年5回出席し情報交換し協力関係ができています。外部評価調査にも同席し熱心さが伺われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを目指している。	毎朝5時に新聞を取りに来る入居者がいるため朝5時から鍵をかけていない。職員は30分ごとに入居者を確認し所在確認表を作り記入している。ゆったりしたホーム内を自由に歩き回っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で虐待の防止の意識と理解を深め常にそのことを念頭に置き、業務にあたるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別に機会を設けて学んではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分理解してもらえるように説明し納得してもらえるようにしている。施設への理解をしていただき、又、入居者の方の今までの暮らしやケアが継続出来るように情報交換を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者本人の求めている事を引き出せるようにし、出来るだけ不満を解消するように努めている。	職員の関わりの少ない入居者に不満の様子(しぐさ)が見られたので職員で話し合い、平等なケアを心がけるようにしたら安定した。家族の面会時は入居者も交え話そう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションを上手く取り、申し送り時や会議等で意見や提案などを吸上げより良いケアが出来るように努めている。	毎月のグループホーム会議や申し送り簿等で意見や提案が出来る。今年度は食堂の照明が暗いことやエアコン・ガス台の取り替えの要求があり実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査制度への反映、個人面接等で各職員の意見を聞くことに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修への参加と実践的技術指導を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど外部事業者との交流機会はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に入所前施設見学等に来ていただいているが、なかなか初期段階で本人からの要望は少なく、大半はご家族の意見を介してご本人との信頼関係構築に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り時点で良く話を聞き、ご家族が何を施設に要望しているのか、施設側がどういった事に対応できるのか説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー等と相談し話を進め、必要に応じたサービスを説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共存性を大事にし日常的に出来る部分は行っていただき、できない部分に関し職員と一緒に行ってその際には感謝の言葉、労いの言葉などを忘れないように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報報告を密に行い、現在の状態を分かっていたるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思を尊重し、出来る限り対応出来るように努めている。外出に関しては家族と相談しながら行っており家族に対応していただくことが多い。	併設施設職員と話し合い「今日は〇〇さんが来ている」と情報があると会いに行ったり、嗜好品等買いたい時は職員と一緒に行き「今日は〇〇に行くんだけど」と声かけをして職員が誘っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなか入居者同士のみでの関係を築くことは難しい為、職員が仲立ちを行いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じ退所後の相談にあたっている。併設施設に入る人が多いので特養職員への情報提供や入所後に面会に行き様子を見に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントを利用している。本人からの聞き取りが困難な場合は家族等に十分な聞き取りを行っている。	バックグラウンドアセスメント(幼少期から老人期までの生活模様やエピソード等記入)参考に、また日々のさりげないしぐさや会話から感じとっている。毎日晚酌が2名タバコ1名おり楽しみにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込み時から詳しく聞き取りし、出来るだけ把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に出来るだけ細かく行動記録をとり、全職員がその行動状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人を尊重し作成しているがより客観的で具体的な介護計画作りを目指している。	月1回のグループホーム会議で、一人ひとりのことを話し合ってモニタリングの見直しをしている。他人の悪口を言う入居者の介護計画には、関わり方が詳しく記載されおりケアがしやすくなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を具体的に記述し全職員が情報を共有出来るようにし、気づいた点や改善点については、日々のミーティングや会議等で迅速に話合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに可能な限り対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ協力していただけるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に入所前から通院している医師を継続して受診しており、通院の際は家族に対応していただいている。不調の際は併設特養看護師や家族と良く話し合い適切な受診が出来るように支援している。	家族が対応する通院の際はバイタルの写しと特記事項を渡している。急変時のため緊急時入居者情報表(服薬名、バイタル、連絡先等)を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養看護師に状況、状態を報告し指示やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関によっては家族以外へ情報提供をしてくれないこともあり、家族を仲介して情報を得ているのがほとんどである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族への情報報告を密に行い、状態に合った対応を試み、対応方針の共有化を構築している。	「緊急時の対応について入居者(家族)の事前意思確認書」「重度化時対応希望書」を成文化して説明し、今年度から入居者や家族全員から同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で対応についての訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と合同で実施	年2回消火・避難・通報訓練を行い特養併設と立地状況から地域の協力はないが区長を通して協力体制を作る予定でいる。東日本大震災後から備蓄を多くするため冷蔵庫を大型にしたり浴槽に水を貯めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を理解しながら、その方に合った話し方を心掛け対応している。	相手の立場になって考えるようにしている。されて嫌なことはしない、公平な声かけ、居室の入室前は必ず声かけ等いつも心がけている。トイレ誘導はさりげなく誘ったり、浴室に入る時は特にプライバシーに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の意思を尊重し、思いを伝えることが出来るような誘導支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大事に臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装等は本人に決めてもらっている。散髪の際も出来る限り本人の意思に沿うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の好みを把握し嫌いなもの等には代替え品等で対応している。また、食事の下膳や片付けなど積極的にしていただけるように声かけを行っている。	庭で採れた野菜等取り入れ食事が楽しくなるように工夫し、誕生会やクリスマス等は希望食としている。栄養士へ相談はない。下膳は各自しておりテーブルを拭き食堂を箒で掃いている入居者がみられた。	いろいろ工夫は見られるがより良くするために、栄養士による栄養のバランス等献立について、助言を得ることをお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の病気や体調に合わせた支援を心掛けている。また、水分や栄養摂取状況が思わしくない方に対しては必要に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけて口腔ケアに努めている。歯科医の訪問診療があり、その際に相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパット等各々の状態に合わせたものを使用し時間帯により種類を変えて見たりとストレスの軽減に努めている。	自立に向けズボンの上げ下げが楽なものにしている。また足腰が弱くならないように石巻仮設住宅で使用しているDVDで「おらほのラジオ体操」は方言で「イズ・ニ・サン・スー」入居者は喜んで声を出し体操をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄状況を把握し、その人に合った下剤の投与に努めている。十分な水分や軽運動で便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴日以外、発汗時、汚染時など臨機応変に対応している。	浴室は広くゆったりしている。入浴拒否者は「散歩に行きませんか」等声がけに工夫している。歌の好きな入居者と一緒に歌を歌ったりしている。寝る前は毎日清拭しパジャマを毎日交換して清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日の流れを把握し、その人に合った休息時間を設定し休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員服薬に関して理解を深めるように努めている。また、飲み忘れのないように目配りと確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみごとや役割を見出し場面を作るように努力している。強制的にならないように注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個人の消耗品や嗜好品の購入希望時など職員動向にて対応している。遠方への外出に関しては家族に対応していただいている。	花見や月1回こども園への訪問、「丸森いち」、「館矢間いち」は入居者は喜んで参加している。秋はかかし街道の紅葉を予定している。タバコや晩酌の酒の購入は職員と一緒にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある入居者はある程度の金額を管理していただき、本人管理の難しい方については職員が管理している。外出時などに本人持ちの現金で買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はしておらず、本人の希望に添えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事などに合わせたレイアウトを心掛けている。混乱を軽減できるように工夫している。	庭の花がさりげなく飾ってあり日めくりカレンダーや時計は見やすい高さとなっている。雑誌・オセロ・脳トレ・ニング等があり自由にくつろげる。歌の好きな入居者が多く民謡が流れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに落ち着く場所があり過ごしている。作業時やその時の入居者の気分に応じて職員が誘導する時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のそれまでに暮らして来た環境を大事にした居室作りを心掛けている。混乱の要因になる物などについては家族と話し合い改善に努めている。	ドアの前は暖簾でプライバシーが保たれ畳・フローリング・二人部屋(1)があり仏壇や馴染み品の持ち込みがある。毎日入居者と一緒に掃除し、週2回の集中清掃日もあり居室は整頓され清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整備し入居者が安心・安全な環境で暮らせるように工夫している。		